

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)友井5丁目マンション	階数	地上10F
建設地	東大阪市友井5丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	72人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2019年9月9日
敷地面積	689㎡	作成者	小瀧有洋
建築面積	431㎡	確認日	2019年9月9日
延床面積	3,534㎡	確認者	小瀧有洋

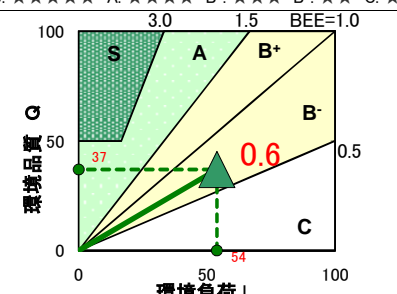


ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

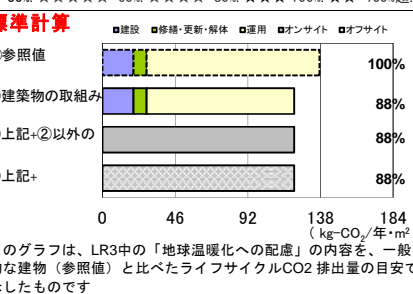


2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

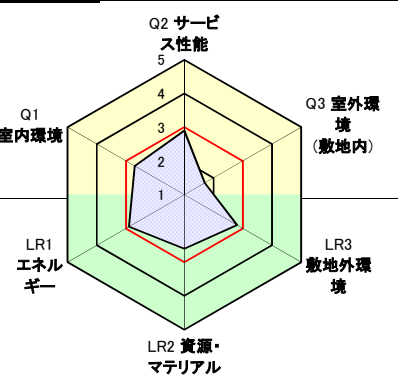
標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

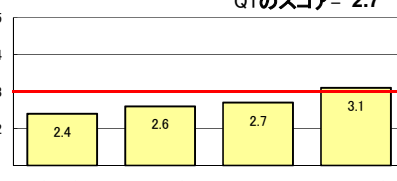


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.4

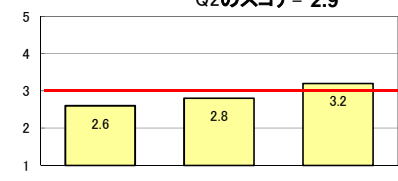
Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7



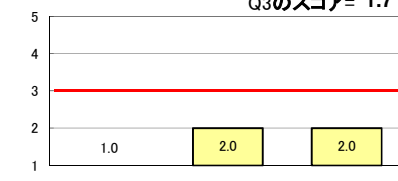
Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9



Q3 室外環境(敷地内)

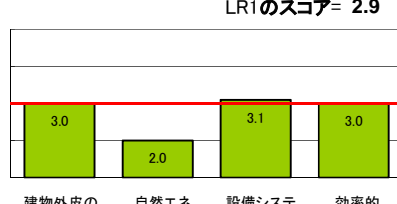
Q3のスコア = 1.7



LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.8

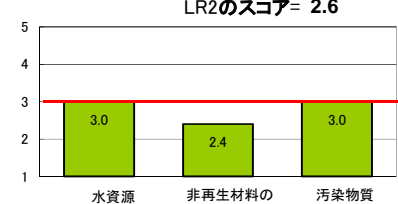
LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9



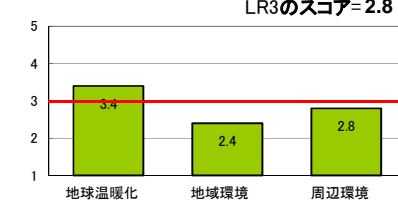
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6



LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8



3 設計上の配慮事項		
総合	限られた費用の中で、可能な限り環境に配慮した建築物の設計としております。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
住居は、適切な採光を確保し、照明器具による照度も適切に設計しています。空調機器はリモコンにより操作が可能です。シックハウス対策についても4☆以上の建材を使用する等の設計をしています。	大阪府福祉のまちづくり条例の「円滑化基準」を満たし、利用者に配慮した設計としています。	東大阪市景観条例による行為の届出を行ない、地域に応じた良好な環境を形成するように設計しています。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」の3相当である。	水資源の保護に寄与する為、主要な水栓及び便器等は節水対策の施された製品を選別しています。	1階を最小限の共用スペースのみの計画として、計画地周辺への迷惑駐車・駐輪をおこなせないように駐車場、駐輪場、單車置場を確保することにより敷地外環境負荷に配慮しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0086

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)友井5丁目マンション							
	建設地	東大阪市友井5丁目							
	用途/区分	集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B-					
①	CO2削減			3					
②	みどり・ヒート アイランド対策			2					
③	建物の断熱性			3					
④	エネルギー削減			3					
⑤	自然エネルギー直接利用			—					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.4	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0	3
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.1	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	—

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項	限られた費用の中で、可能な限り環境に配慮した設計としています。	